

令和5年度

㊦ 上市町教育委員会事務管理執行状況等点検評価報告書

㊦
上市町教育委員会

目 次

令和5年度教育委員会活動状況	1
1 委員選任状況	
2 会議開催状況	
(1) 会議開催数	
(2) 付議案件数	
(3) 会議に付された主な案件	
(4) 視察等	
◎ 評価総括表	2
不登校児童・生徒相談支援	10
小学校外国語活動の推進	11
教員の働き方改革の推進	12
放課後こども教室の充実	13
公民館の充実	14
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進	15
「スポーツ・イン・ライフ」の実践	16
生涯に渡りスポーツを楽しむ環境の整備	17
スポーツ設備の整備	18

1 委員等選任状況

令和6年3月1日現在

職	氏名	年齢	性別	元教諭	任期	通算在任年数	役職任期及び通算在任年数	常勤・非常勤の別	保護者
教育長	牧田 康博	66	男	○	R3.4.1~ R6.3.31	2年11月	教育長: R3.4.1~ (2年11月)	常勤	
教育長職務代理者	堀田 基文	53	男		R2.10.1~ R6.9.30 (H28.10.1~ R2.9.30) (H24.10.1~ H28.9.30)	11年5月	委員長: H26.10.1~H27.3.31 (6月) 委員長職務代理者: H25.10.1~H26.9.30 (1年) 教育長職務代理者: H27.4.1~H27.9.30 (6月) R2.10.1~(3年5月)	非常勤	
委員	高島 善与	69	男	○	R5.10.1~ R9.9.30 (R1.10.1~ R5.9.30) (H29.10.1~ R1.9.30)	6年5月		非常勤	
委員	碓井三恵子	48	女	○	R2.10.1~ R6.9.30	3年5月		非常勤	○
委員	郷田 千秋	66	女	○	R3.10.1~ R7.9.30	2年5月		非常勤	

2 会議開催状況

(1) 会議開催数

定例会	12回
臨時会	0回
書面決議	1回

(2) 付議案件数

議案	24
報告事項	17
請願	0
その他	17
計	58

(3) 会議に付された主な案件

- ・ 学校のあり方について
- ・ 上市町地域クラブ推進協議会設置要綱制定の件
- ・ 上市町地域学校協働活動推進員設置要綱制定の件
- ・ 令和6年度上市町教育目標及び学校教育基本方針決定の件
- ・ 奨学資金調査会委員の互選について
- ・ 令和6年度使用教科用図書採択について

このほか、町議会に提出される予定の議案に対する意見について付された。

(4) 視察等

学校訪問	7
先進地視察	2
県・地方教委研修	2
計	11

- 先進地視察 : 新潟県三条市立大崎学園 (学校教育審議会との合同視察)
 : 愛知県瀬戸市立にじの丘学園、私立瀬戸SOLAN小学校
 ※先進の義務教育学校及び校舎を視察
 県・地方教委研修 : 県内各教育委員会 (富山県市町村教育委員会連合会)

3 評価総括表（令和5年度事業）

重 点 目 標	担 当 班
主な事業	
不登校児童・生徒相談支援	学校教育班
小学校外国語活動の推進	学校教育班
教員の働き方改革の推進	学校教育班
放課後子ども教室の充実	生涯学習班
公民館の充実	生涯学習班
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進	生涯学習班
「スポーツ・イン・ライフ」の実践	生涯スポーツ班
生涯に渡りスポーツを楽しむ環境の整備	生涯スポーツ班
スポーツ施設の整備	生涯スポーツ班

成果・効果

[学校教育]

「心身ともにたくましく心豊かに生き抜く児童・生徒を育てる。」「創造性に満ち、主体的に学び続ける意欲・態度・能力を持った児童・生徒を育てる。」を指導方針に掲げ、保護者と地域、学校が連携して子育てを行う教育を目指している。

小中各校のグラウンド整備を含めた今後の大規模修繕等の計画については、義務教育学校建設も見据え、当面、取り留めておく。

各学校においては、児童・生徒一人ひとりの個性を尊重し、基礎基本を定着させる教育の充実を教育行政の取り組みの基本として進めている。

I C Tに対応した学習環境を学校現場において有効に活用されるように、今年度もI C T支援員を2名配置した。授業計画の作成支援、I C T機器の準備・操作支援、校務支援システムの活用支援などを行っている。

小学校の外国語については、外国語活動研修にて学校の教師に参加してもらい、小中一貫校を見据えたカリキュラム作成に取り組み始めた。

不登校・いじめへの対応については、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用も含め、早期対応と支援に努めている。不登校については、教室外登校の児童生徒も多くいることから、今後も、小中の連携構築を図るとともに、一人ひとりへのカウンセリングや家庭への支援も含め、自己肯定感を培う、粘り強い継続した取り組みが必要である。また、教育支援センターに相談指導員として教員 O B を配置し、生活面だけでなく学習面についても支援している。いじめについては、各学校での積極的な認知を呼びかけてきたことから、件数が増加しているが、いじめの捉え方など教職員の認識に変化が出始め、早期の発見・対応につながってきている。

また、特別な支援を要する児童の学校生活を支援するため、全小中学校にスタディ・メイトを配置しており、その効果は大きい。また、学習支援員として教員 O B を配置している。学校の派遣要望に対応するため、引き続き人材及び財源の確保に努める必要がある。さらに、障害を早期に発見することにより、適切な療育・教育機会の提供が行えるよう、町教育センターに発達障害支援アドバイザーを配置している。発達障害支援アドバイザーを中心に、学校や保育所などの関係機関が連携し、支援を進めてきたことにより、保護者の方々や関係者の教育支援センターも含めた特別支援教育への理解が深まっている。また、教育支援員を配置し、各小中学校からの要望に応じた教育支援を行っている。

通学路の安全点検については、今年度も実施することができた。中学校の修学旅行や、「ふるさと学習」などの課外活動、運動会や学習発表会などの学校行事は交流をしながら実施している。

地域の協力を得ながら「地域とともにある学校」という観点を第一義に捉えた魅力あふれる学校づくりを引き続き進めていく。

教員の働き方改革については、今年度も水泳指導の補助や教室のワックスがけなどを業務委託し、教員の負担軽減を図った。また、部活動の地域移行などにより中学校での教員の負担軽減に取り組んだ。さらに、給食について、町独自の公会計化を進め、学校事務の負担軽減につなげている。

これからの子どもたちにとって必要とされる教育環境を整備することを目的に、町長から学校統廃合の具

体的な方策について上市町学校教育審議会に諮問があり、議論を進め、答申を行った。

[生涯学習]

人々に学ぶ喜びや感動を与え、達成感・生きがいをもたらす生涯学習の推進に取り組んでいる。

各公民館においては、公民館職員自らが企画する行事の開催や、地域の諸活動の拠点として、地域住民に利用される施設を目指している。コロナ禍では、不特定多数が参加する行事の中止や飲食を伴った利用の自粛など活動の規模縮小を余儀なくされたが、今年度はそうした制限を取り払い、事業を実施した。参加者数はコロナ禍前の水準には戻っていないが、新しい試みとして、相ノ木公民館においてリモートでの介護予防教室（毎週金曜）の実施や、9公民館でのスマホ教室開催、SNSでの情報発信など、デジタル技術を活用し未利用層へのアプローチを行ったところ好評であった。今後、三世代交流を軸に地域の核として、公民館の役割が益々重要になってくるので、新たな利用者を取り込めるような事業を展開していきたい。

また、「ふるさと町民学園」は、受講者が楽しく集い、共に学ぶことを大切にしながら30年以上事業を実施している。今年度は新町制70周年記念特別講座として「マニアックな上市町を新発見！」と題した講座を実施した。令和5年度は開閉講式を含めて延べ659名の受講があった（令和5年度から集計方法を変更）。

小・中学校や公民館で実施している放課後子ども教室については、依然として参加者数がコロナ禍前の水準には戻らない教室もあるが、子供たちが集中して学習できる環境を整え、放課後教室同士で連携を図るなど、工夫して開催した。

「史跡 上市黒川遺跡群」の保存整備に関しては、平成24年度に策定した「整備活用基本計画」にある整備・活用の方向性に沿って、平成26年度に測量・基本設計と段階的に事業を進め、平成28年度より本格的に保存整備に着手したところである。今年度はパーゴラの設置やその周辺の舗装などを実施している。

[生涯スポーツ]

生涯スポーツにおける各種イベントの参加者数は、多くの住民がスポーツを実践し、健康づくりや生きがいにつながるよう、そして活力のあるまちづくりを推進していくうえでも、重要なひとつの指標である。今年度は、スポーツ振興くじを活用した新規イベントとして、「つるぎりレーマラソン&健康ウォーク」を開催し、町内外、県外から多数の参加があった。

町民スキー大会は、前回開催大会より申込者数は増加したが、大会直前の雪不足のため、中止となった。

スポーツ少年団交流会については、他の大会やイベントと開催が重複したため、参加児童が前回より約30人減少した。実施競技については、見直しを行ったことにより参加者からは好評であった。また、スポーツ少年団指導者に向けて、救急対応やハラスメントについての研修を（公財）富山県スポーツ協会からの助成金を基に実施した。

部活動の地域移行については、令和5年度から令和7年度までを改革推進期間とし全国的に取り組みが推進されるものであり、町内においても町地域クラブ推進協議会を立ち上げて町スポーツ協会や各スポーツ団体との協議を進め、今年度新たに、5競技で地域クラブが発足した。

プレゴールデンエイジ期の幼児、児童を対象に実施する健康運動能力向上支援事業においては、幼児期か

ら継続的に実施することで、運動習慣の定着といった成果が見られるとともに、専門指導者の増員を行ったことで、保育所（園）や小学校教員の指導方法の共有や普段の運動プログラムの効率化といった成果が見られた。運動好きな子供の増加と体力向上という観点から継続して実施していく。

問題点

[学校教育]

いじめや不登校、その他の学校内での問題行動等については、保護者等の幼少期からの障害への理解不足や家庭環境なども影響を与えていることから、福祉部局と連携した取り組みが必要とされ、子ども家庭総合拠点が設置されている。幼保・小中も含め、乳幼児期からの包括的な一貫した相談や支援の態勢を、関係機関が共通理解のもと、進めていく必要がある。

また、ICTを活用し、個々にあった学びを進めていくことが重要と考えており、さらなる活用を図るため、引き続きICT支援員の配置や研修内容の充実を図っていく必要がある。

今般の物価高の影響から、子どもたちを取り巻く環境はまだ厳しい状況が続くことが予想され、心のケアや奨学資金の減免などの経済的な支援の充実についての検討が必要となっている。

教職員の働き方改革への視点も十分に踏まえながら、業務内容の改善を図るため、引き続き水泳指導の補助や教室のワックスがけの業務委託を進めていく必要がある。

また、給食費を公会計化したことにより、学校間での献立の差異をなくし、より子どもたちに安定した給食の提供を行うことができる。来年度も給食費の無償化を継続していくこととしたが、食材費が値上がりする中、一層工夫しながら、栄養のある美味しい給食の提供に努めていく必要がある。

小中学校のあり方については、義務教育学校設置について、基本計画策定及びPFI等導入可能性調査を行っていく必要がある。

[生涯学習]

「公民館講座」や「ふるさと町民学園」について、受講者の高齢化と新規受講者の掘り起こしが課題となっている。人口減少が進む中、地域コミュニティの活性化につなげるためにも、幅広い世代が参加し交流できるよう、運営形態や情報発信の手段などを工夫し改善していくとともにデジタル技術の導入など時代に見合った環境に整備していく必要がある。中でも、情報発信について、従来は、各公民館で発行している公民館報や町広報等により発信してきたが、現在、4館（南加積、柿沢、宮川、白萩西部公民館）でインスタグラムを利用した情報発信を試みている。効果を検証しつつ、各公民館でノウハウを共有しながら継続的に運用していきたい。

「史跡 上市黒川遺跡群」の保存整備に関しては、国（文化庁）の補助金が要望額を大きく下回る状況が続き工事の発注がこま切れとなってしまう、当初の計画に遅れが生じているため、今後計画の見直しが必要である。早期の保存整備工事完了と更なる活用事業の展開を目指し、計画の見直しや整備・活用方法について整備活用検討委員会に諮りつつ、補助金の獲得に向けた国・県との協議を進める必要がある。

[生涯スポーツ]

富山県が実施するスマートフォンアプリを使い散歩を通して運動習慣の定着を図る事業を町ホームページでも紹介した。町は民間事業者と相互連携・協働し地域の諸課題を解決する包括連携協定を締結している。昨年から引き続き、地域スポーツクラブのスポーツイベントで生命保険会社による健康チェックのブースを開設したが、他のスポーツイベントへの拡充や「スポーツ・イン・ライフ」の面からの連携を協議していきたい。

今年度新規イベントとして実施した、「つるぎりレーマラソン&健康ウォーク」については、運営スタッフの確保が困難であったため、町スポーツ協会をはじめとする各競技団体への参加を促していく必要がある。

総合型スポーツクラブに関しては、中学校部活動地域移行における検討会等で各競技協会やクラブチーム等との意見交換などを行い、課題や将来像について共有することができた。今後、持続可能なクラブ運営に向けてさらに連携協力していくことが必要である。今年度は、元体育教諭を会計年度任用職員として総合型スポーツクラブアシスタントマネジャーに配置し、教室等の改善を図った。今年度もクラブ事務所があるB&G海洋センター体育館でスポーツフェスタと銘打ちしたスポーツまつりを開催した。子どもたちに人気の常設のトランポリンや新設のクライミングウォールを使い体験してもらうことで総合スポーツクラブが実施している諸教室を知っていただくよい機会となった。今後は、指導面も含め気軽にクライミングを楽しんでもらえる環境づくりが必要である。

部活動地域移行は、スポーツや文化活動の関係団体で構成する「上市町部活動のあり方検討会」において、部活動のあり方について検討を重ね、今年度新たに5つの地域クラブが加わり、7競技8団体で活動する。地域クラブの指導者の大会引率や施設利用料に一定の助成をしていくが、会計処理や各種登録業務などクラブ運営への支援が必要なことから、地域クラブコーディネーターを配置した。併せて運動指導者の実技やメンタルにとどまらず、パワーハラスメントやセクシュアルハラスメントの防止、救急対応の研修会を実施した。地域クラブ化していない部活動においては、スポーツにおける多様な活動の選択肢を残し、専門的な指導が受けられ、充実した中学生生活を過ごせるよう引き続き地域の方の協力や指導者の掘り起こしを図ることが重要である。

体育施設の整備は今後とも適切な維持管理に努め、安全かつ快適に利用できる環境を維持していく必要がある。体育施設の利用者については、各種スポーツ団体を中心に利用者の固定化が見られ、構成員は減少し団体数は微増傾向で推移している。中学部活動の地域移行により体育施設の空き状況はひっ迫しており、今後小学校の統廃合がある場合に体育施設が減少する可能性もある。スポット利用や新規団体へのスポーツを楽しむ機会提供のためにも体育施設の利用者調整を更に図っていく必要がある。

外部学識経験者の意見 (富山大学教育学部教授 笹田 茂樹)

地域と密接に連携しながら、子どもたち一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす教育を目指して、様々な取組が実施されている。

特に令和4年度より上市中学校がコミュニティスクールの指定を受けるとともに、地域学校協働本部事業が本格的に始動したことにより、学校教育・社会教育の両面において、地域の意見を一層反映させながら様々な事業を展開していくことが期待される。

また、学校教育審議会において義務教育学校の設置を目指す答申が出されたことから、町の将来を見通した上で、子どもたちが主体性を持って学べるような教育体制の構築が望まれる。

評価 (富山大学教育学部教授 笹田 茂樹)

学校教育、生涯学習、生涯スポーツのいずれの分野においても、概ね目標は達成されている。

特に、部活動の地域移行に関しては、他の自治体と比較してもかなりスムーズに進められており、時間外労働時間が著しく減少するなど、教員の働き方改革に寄与するとともに、地域の協力を得ながら、子どもたちが生涯にわたりスポーツを楽しめる環境が整いつつある。

外部学識経験者のプロフィール

富山大学教育学部教授

笹田 茂樹

専門分野

教育行政学

経歴

1982年 慶応義塾大学文学部史学科 卒業
2001年 神戸大学大学院総合人間科学研究科 (博士前期課程) 人間発達科学専攻 修了 (修士 (学術))
2007年 神戸大学大学院総合人間科学研究科 (博士後期課程) 人間形成科学専攻 修了 (博士 (学術))

1982年 株式会社日本交通公社入社 神戸三宮支店勤務 (1984年まで)
1986年 兵庫県高等学校社会科教員として採用される。(2009年まで)
2009年 富山大学人間発達科学部 准教授
2016年 富山大学人間発達科学部 教授
2022年 富山大学教育学部 教授

主な著書

2006年『現代教養論』(共著) (学文社)、
2009年『リーディングス日本の教育と社会 教師という仕事』(共著) (日本図書センター)
2010年『地域教育の構想』(共著) (同時代社) など

社会活動

富山県民生涯学習カレッジ富山地区センター運営会議委員長
富山市教育委員会事務管理執行状況点検評価委員
富山市教育振興基本計画懇話会委員 (2019年)
魚津市教育振興基本計画策定委員会会長 (2014～2015年)

令和5年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	不登校児童・生徒相談支援
目標とする指標	1・2学期の不登校、教室外登校児童・生徒の人数		

1 目標数値

年度別 きない 目標 数値等 の方向 （数値化で）	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和5年度末実績	
	令和3年度	不登校、教室外登校児童・生徒の人数(1・2学期) [不登校]			不登校、教室外登校児童・生徒の人数(1・2学期)
	目標年度	小学校 0名 中学校 19名	0名 10名	9名 20名	
	令和7年度	[教室外登校] 小学校 2名 中学校 6名	0名 5名	3名 9名	

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
教育支援センターの運営	不登校の児童・生徒が再登校を目指せるよう、上市町適応指導教室に支援員2名を常時配置し、児童・生徒の対応にあたる。
スクールカウンセラーの配置	県教育委員会が全小中学校にスクールカウンセラーを各1名配置し、児童・生徒のカウンセリングにあたる。
スクールソーシャルワーカーの配置	社会福祉士であるスクールソーシャルワーカーを上市中学校、教育センターに配置し、主に不登校の傾向にある児童・生徒やその家庭への働きかけなどの対応にあたる。
子どもと親の相談員の配置	学校生活や家庭生活での子どもや親の不安や困り感に対応するため、今年度も県事業を活用し、相談員を1校に配置し、家庭支援にあたる。
悩みごと相談窓口の設置	学齢期の子どもを持つ保護者に向けた悩みごと相談窓口を上市児童館2階の幼児ことばの教室内に設置。教育センターの発達支援アドバイザーが相談にあたる。

3 令和5年度末実績の点検及び評価

<p>不登校児童・生徒の数は、スクールカウンセラーの配置や町教育センターに配置した発達障害支援アドバイザーを中心に相談・支援体制の充実を図ってきたことから、減少傾向にあった。しかしながら、家庭環境が悪化している家庭が多く見られる。このため不安を抱え不登校傾向になっているが、特に小学生の不登校が多くなっているように思われる。</p> <p>学校になかなか登校することができない児童・生徒に対しては、子どもと保護者に寄り添ったケアに取り組むことが大切である。学校でも引き続き担任の家庭訪問を含めスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家と連携を取りつつ、相談・支援していく必要はあるが、児童虐待の状況も考えられるため、福祉部局と連携した家庭支援体制の構築を進めることが求められる。</p> <p>今後も、関係者が一体となって不登校の児童・生徒や保護者をケアしていく必要があるが、不登校の要因の一つであるいじめ等へのより早期からの対応に加え、家庭支援にも取り組んでいくことが必要であることから、福祉部局に子ども家庭総合支援拠点が設置されている。また、学齢期の子どもを持つ保護者に向けた悩みごと(不登校など)相談窓口が設置されている。</p> <p>引き続き、子どもたちへの心のケアが必要である。</p>
--

令和5年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	小学校外国語活動の推進
目標とする指標	アンケート結果の「とても楽しい」回答率		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化で きないものは方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和5年度末実績
	令和3年度	40%	60%	40%
	目標年度			
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
外国語指導助手の配置	各小学校に4名配置。英語での会話や発音のモデルとなり、担当教員の授業をサポートする。フォニックス指導を担当する。
外国語指導研修の実施	小学校外国語活動の指導力向上を促すため、年3回程度開催する。
フォニックスカードの導入	アルファベットごとの単語をイラストとつなげて子どもたちが覚えやすいように、フォニックスカードを作成する。

3 令和5年度末実績の点検及び評価

外国語教育の目標の一つとして、「英語を聴いて書ける」力を子どもたちに育むことをめざすため、昨年度、小学校3、4年生の外国語活動、5、6年生の外国語科のすべての授業において「フォニックス」を導入した。令和3年度末に児童アンケートを実施し、フォニックス活動が「とても楽しい」「まあまあ楽しい」「あまり楽しくない」「全然楽しくない」の4項目で回答してもらい、約40%の児童が「とても楽しい」と回答した。今後は、外国語指導研修の実施などによりアンケートの「とても楽しい」率を上げていく必要がある。

令和5年度 主要事務

担当班	学校教育班	事務の内容	教員の働き方改革の推進
目標とする指標	教員の時間外勤務の削減		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化できないものは方向)	基準年度	基準数値		令和7年度目標		令和5年度末実績	
	令和3年度	教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間		教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間		教員の時間外勤務時間年間通しての月平均時間	
	目標年度	小学校 中学校	35.8時間 65.0時間	小学校 中学校	20時間 50時間	小学校 中学校	23.6時間 35.0時間
	令和7年度						

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
ICT支援員配置事業	ICT支援員を配置し、教員のICT活用を促進し、業務改善につなげる。
留守番電話設置事業	音声ガイダンス対応の留守番電を設置することにより、時間外の間合せ等に備え、時間外対応の軽減につなげる。
地域部活動推進事業	地域の各競技協会、スポーツ少年団、スポーツ指導者等と連携し地域に新しくクラブを設置し、中学校部活動を移行することにより、教員の負担軽減につなげる。

3 令和5年度末実績の点検及び評価

<p>今年度も、プール授業や教室のワックスがけなど教員の負担となっている業務の見直しを行い、業務委託を行うなどして、負担軽減を図った。また、部活動の地域移行などにより中学校での教員の負担軽減に取り組んだ。さらに給食については、町独自の公会計化を進め、学校事務の負担軽減につなげた。</p> <p>今後は、部活動の地域移行をさらに進め、教員の負担軽減につなげたい。</p>

令和5年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	放課後子ども教室の充実
目標とする指標	放課後子ども教室の利用延べ人数		

1 目標数値

年度別 目標数値等 (数値化で 方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和5年度末実績
	令和3年度	放課後子ども教室 利用延べ人数 14,653人	利用延べ人数 14,700人	利用延べ人数(見込み) 11,000人
	目標年度			
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
放課後子ども教室推進事業	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、学習や体力づくり、文化活動などの、体験・交流活動の機会を提供する教室を実施している。 また、中学校では、放課後に教員OBや大学生による学習支援を行う教室、各公民館では、子どもたちの居場所づくりとして、工作教室や料理教室などの体験学習を中心に、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現することを目的とした教室を実施している。

3 令和5年度末実績の点検及び評価

<p>利用者数については、部活動の地域移行の導入なども影響して、依然としてコロナ禍前の水準には戻らないが、各教室からは開催数を増やす要望などが上がっており、また、放課後児童クラブとの連携など、それぞれの教室で開催方法を工夫して実施している。支援員やコーディネーター、サポーターなど運営に携わる人員の確保が課題である。</p>
--

令和5年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	公民館の充実
目標とする指標	公民館講座受講者数		

1 目標数値

年度別目標数値等 (数値化できないもの方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和5年度末実績
	令和3年度	33,976人 講座受講者延べ人数	34,000人/年間 170,000人 (R3~R7延べ人数)	23,000人 講座受講者延べ人数 (見込み)
	目標年度			
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
公民館講座開催及び行事の実施	各公民館で開催している公民館講座のPRに努めるほか、公民館での行事実施により、町民が公民館を訪れる機会を創出することで公民館を知ってもらうように努め、講座参加者の増加につなげたい。
公民館環境の充実	高齢利用者へ対応するため、必要な公民館へ机、椅子等を整備するほか、必要な施設修繕の実施により館内で快適に過ごすことができるように努めたい。
地域での読書環境の充実	上市図書館の蔵書の一部を地区公民館に配置することにより、読書に親しむ環境が町民の身近な施設で提供できるよう努めたい。

3 令和5年度末実績の点検及び評価

<p>公民館講座、行事等については、参加者の大幅な増加には至っていないが、新しい試みとして、相ノ木公民館においてリモートでの介護予防教室(毎週金曜)の実施や、9公民館でのスマホ教室開催、SNSでの情報発信など、デジタルを活用し未利用層へのアプローチを行った。</p> <p>公民館利用者の高齢化に対応するため、今年度も公民館2箇所(弓庄、白萩南部)に会議用テーブル(計8台)を設置した。</p> <p>また、主な修繕として、シロアリ被害(宮川・山加積)への対応や、音杉コミュニティセンター駐車場の照明と区画線を整備した。</p> <p>さらに、上市図書館の蔵書を公民館3箇所(音杉、南加積、弓庄)に配置しているが、年3回の蔵書入れ替えを実施し、地域の読書環境向上に努めた。</p> <p>評価:引き続きデジタルを活用し新たな利用者を取り込めるよう努めたい。また、施設修繕について、緊急性や優先度を精査しながら適切に実施し、生涯学習環境の充実を図っていきたい。</p> <p>地域の読書環境の更なる向上のため、上市図書館と連携し、地域の要望に沿った蔵書を公民館に配置できるように努めたい。</p>

令和5年度 主要事務

担当班	生涯学習班	事務の内容	史跡上市黒川遺跡群保存整備事業の推進
目標とする指標	整備活用事業などの推進		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化できなものは方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和5年度末実績
	令和3年度	平成18年1月26日 史跡指定	保存整備事業の推進 活用事業の推進	黒川上山墓跡 ・保存整備工事
	目標年度	平成18年3月10日 上市町が管理団体に		
	令和7年度			

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
史跡上市黒川遺跡群保存整備事業	<p>上市黒川遺跡群は、中世の文化・宗教・社会を知る上で、上市町のみならず全国的にも貴重な遺跡として平成18年に国指定史跡となった。</p> <p>これまで保存管理計画の策定(平成19・20年度)、史跡指定地の公有化(平成21～23年度)、整備活用基本計画の策定(平成23・24年度)、整備基本設計(平成25・26年度)と段階的に事業を進め、平成28年度からは国庫補助金・県補助金の交付を受けて保存整備事業に着手している。</p> <p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒川上山墓跡保存整備事業 保存整備工事(パーゴラ設置、土系固化舗装(パーゴラ周り)等)

3 令和5年度末実績の点検及び評価

<p>・黒川上山墓跡保存整備事業</p> <p>今年度はパーゴラの設置やパーゴラ周りの土系固化舗装、枯損木の撤去などを実施しているが、地震に伴う資材の納期遅延が発生したため、令和5年度保存整備工事に関しては、翌年度に繰越し、令和6年6月末に完成を予定している。近年、国(文化庁)の補助金が要望額を下回る状況が続いており、工事の発注がこま切れとなって、当初の計画に遅れが生じている。早期の保存整備工事完了と更なる活用事業の展開を目指し、史跡上市黒川遺跡群整備活用検討委員会や国、県と協議し、計画の見直しを行う必要がある。</p> <p>・活用事業の実施(黒川フェスティバル)</p> <p>令和5年度中止</p>

令和5年度 主要事務

担当班	生涯スポーツ班	事務の内容	「スポーツ・イン・ライフ」の実践
目標とする指標	「スポーツ・イン・ライフ」の実践		

1 目標数値

年度別目標数値等(数値化できないものは方向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和5年度末実績
	令和3年度	スポーツ人口、スポーツ団体ともに高齢化・減少化にあり、またスポーツ施設が一時休館するなど利用制限もあった。	スポーツを「する・みる・ささえる」活動を推進する。	参加型スポーツイベントとして「つるぎリレーマラソン&健康ウォーク大会」を無事開催。 参加者 300名
	目標年度		カヌー・キャンプイベントを開催する。	劔新自然公園においてカヌー・キャンプイベントを開催した。 参加者 20名
	令和7年度	三つの間(「時間」「空間」「仲間」)や既成のスポーツに捉われない日常生活の中で自然にスポーツに親しむ「スポーツ・イン・ライフ」の実践	「スポーツ・イン・ライフ」の認識普及	

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
生涯スポーツ推進事業	新しい参加型スポーツイベント開催 ・つるぎリレーマラソン&健康ウォーク大会 スポーツで活躍する選手を広く紹介することで、スポーツを身近にする ・選手表敬訪問及び各種メディアで広報する。
野外活動普及事業	健康ウォークなど自然に親しみながら体を動かすイベントの開催。 ・カヌー・キャンプイベント ・小学生自然体験事業 低山トレッキング(はげ山) ・健康ウォークイベントへの支援
「スポーツ・イン・ライフ」啓発事業	各種自然体験型レクリエーションを通じて、生活の中にスポーツを位置づけるほか、地元の自然資源に触れ体験することで地域愛の醸成図れるような事業を実施。 (上記体験型スポーツイベントの開催)

3 令和5年度末実績の点検及び評価

生涯スポーツ推進事業	職場の仲間、友人、町内会単位で参加するイベント、つるぎリレーマラソン&健康ウォーク大会を開催できたことは、新たなスポーツ人口の増につながったものと感じる。また、同日に手軽にできるニュースポーツを紹介できたことは、スポーツ活動、体を動かすことを身近に感じてもらったものと考え。 また、地元縁ある競技スポーツ選手(プロ野球、プロサッカー、カヌー等)を広く紹介できた
野外活動普及事業	町内の自然資源を活用した野外活動を企画実施する。自然に触れ普段経験することができないカヌーやキャンプ宿泊を行うことで、心身リフレッシュとなり健康への意識付けと、隠れた町の良さを知ってもらいきっかけとなった。引き続き実施できるようにしたい。
「スポーツ・イン・ライフ」啓発事業	体験型のスポーツイベント、キャンプ、カヌー体験、ニュースポーツ体験などを意識した事業を行ったことで、よりスポーツや健康を意識してもらえたものと感じる。ただ、数値で表すことが難しく、引き続き民間事業団体と協力して多くの方々に実感していただけるよう取り組みたい。

令和5年度 主要事務

担 当 班	生涯スポーツ班	事務の内容	生涯に渡りスポーツを楽しむ環境の整備
目標とする指標	地域への新規クラブ設置数		

1 目標数値

年度別 き な い 目 標 数 値 等 (数 値 化 で 方 向)	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和5年度末実績
	令和3年度	児童、生徒数の減少に伴い、中学校部活動数の維持が将来困難である。	地域クラブ設置に向け競技協会、スポーツエキスパート、指導員等に地域移行に向けた方針を説明する。	地域への新規クラブを7競技設置する。 (カヌー、硬式テニス、バスケットボール、バドミントン、柔道、剣道、空手道)
	目標年度			
	令和7年度	地域への新規クラブ設置数 5~10クラブ		

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
地域部活動推進事業	地域の各競技協会、スポーツ少年団、スポーツ指導者等と連携し地域に新しくクラブを設置し、中学校部活動を移行する。地域に活動場所を移行することで、子供たちの活動の場と機会の確保を図る。また、指導者の資質向上や競技団体の活性化を図る。
上市町総合スポーツクラブの充実	上市町総合スポーツクラブとスポーツ関係団体との連携を促進させることで、ガバナンスの強化を促し、指導者の確保やニーズに応じた教室の増加に繋げることで、クラブの認知度を上げ、自立的なクラブ運営を促進する環境を整備する。
健康運動能力向上支援事業	プレ・ゴールデンエイジ期に、各専門指導者を保育園や小学校に派遣することで多様な運動経験を積み、運動能力やコミュニケーション能力の向上を図る。

3 令和5年度末実績の点検及び評価

地域部活動推進事業	今年度は、中学校からバスケットボール部、バドミントン部、柔道部、剣道部、空手道部の5競技を地域クラブに移行し、令和4年度に移行したカヌー部、硬式テニス部と合わせ7つの地域クラブを発足した。アンケートの実施による満足度調査や体験教室「上中トライアル」や指導者研修会を実施することで、持続可能な運営体制について協議することができた。
上市町総合スポーツクラブの充実	総合スポーツクラブに新規アシスタントマネージャーを迎え、教室やイベントの内容充実につなげることができた。今後も町民のニーズを把握し地域のスポーツ振興拠点として運営していくために、町スポーツ協会やスポーツ推進委員協議会との連携を深めていきたい。
健康運動能力向上支援事業	5歳~8歳の幼児、児童へ継続的に運動指導を行うことで運動好きな子どもの数が増えた。各保育所(園)や小学校のニーズの把握を行い、講師と情報共有することで子ども達は積極的に活動に参加できている。対象年齢外の児童、生徒の運動習慣の定着つなげる取組みも進めていきたい。

令和5年度 主要事務

担 当 班	生涯スポーツ班	事務の内容	スポーツ施設の整備
目標とする指標	施設修繕件数と備品整備件数		

1 目標数値

年度別 き な い 目 標 数 値 等 の 方 向 （ 数 値 化 で	基準年度	基準数値	令和7年度目標	令和5年度末実績
	令和3年度	スポーツをする環境の充実 水銀灯照明のLED化	修繕:5件 備品購入:2件 LED化:1施設	修繕:5件 備品購入:1件 LED化:1施設
	目標年度			
	令和7年度	水銀灯照明のLED化 4施設		

2 目標達成のための主な事業

事務事業名	事業内容
社会体育施設整備事業	社会体育施設の長寿命化、機能向上やLED電球への置換工事等の環境整備や施設利用者間の利用調整を進めることで施設利用の促進を図る。 グラウンド付属設備(照明設備・防球ネット等)をはじめとする学校開放事業に係る環境整備を行うことや施設利用者間の利用調整を図る。 スポーツ少年団活動場所の整備や提供、スポーツ少年団同士の交流を促進させ、技術の向上だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図る。
学校開放施設整備事業	
スポーツ少年団活動の充実	

3 令和5年度末実績の点検及び評価

社会体育施設整備事業	今年度は、上市町民体育館LED化、巾木、漏水、ドアの修繕工事を行った。また、社会体育施設の老朽化が著しいため、引き続きこまめな点検・修繕が必要である。備品については、セパレート式卓球台を1台購入し、上市町B&G海洋センター体育館へ配備した。
学校開放施設整備事業	小学校ごとに利用頻度が異なるので、利用状況を確認し優先順位をつけて整備を進めていきたい。
スポーツ少年団活動の充実	昨年に引き続き、スポーツ少年団交流会を開催した。来年度以降も継続して開催し、日頃競技のみでしか交わることない団員同士の交流の機会を提供し続けていきたい。